

伝統音楽における伝承の諸相（徳島県、淡路島、インドネシア・他）

愛知淑徳大学大学院教授

岩井正浩

【徳島と淡路島】＝私が関係している徳島県(文化財保護審議会委員)を取り上げます。その際に徳島県と深い関係を続けてきている兵庫県淡路島も対象とします。徳島県および淡路島に共通している音楽(芸能)は人形浄瑠璃です。学校における人形浄瑠璃活動は資料1に取り上げています。淡路島における人形浄瑠璃は市小学校→南淡中学校→三原高校と連続性を持っているし、さらに学校外でも福井子ども会、淡路人形浄瑠璃青年会などが活動を行っています。そして三原高校にはクラブ活動の拠点としての人形会館が、南あわじ市には淡路人形座新会館が常時上演を行っています。一方、淡路市では人形座が廃業し、地元の師匠や素人の太夫さんが絶えて半世紀になってきています。徳島県における学校での活動は勝浦座の指導で小松島西高勝浦校や城北高校などでの取り組みが行われています。一般では勝浦座をはじめ数多くの座が存在し、犬飼、坂州をはじめ各地の農村舞台での上演が行われています。[資料2] 淡路島の春祭りで歌われる「だんじり歌」は、子どもから大人までが歌い、毎年フェスティバルも開催されています。徳島の「阿波踊り」は三味線と笛そして《よしこの》です。しかし《よしこの》は娯茶平など一部の連でしか歌われなくなり、三味線を用いない苔作連、平均律化されたみさと笛の登場など大きな変容も起きつつあります。

【ジョグジャカルタ芸術大学】＝ガムラン学科に入学するのはほぼガムラン家系の子達でしたが、近年は普通の主婦、社会人入試、ジャワ島以外出身者、西洋音楽学科からの転部の学生も出てきていて、一般人にガムランへの関心が高まってきています。一方でガムランやワヤンの場は次第に失われて、ガムランチームも高齢化が進んできています。ダラン(影絵遣い師)も様々な娯楽的要素を盛り込んだり、時間の短縮、新しい形態のワヤンに挑戦するなどしてきています。私が鑑賞したバリ島のワヤンでは、時々日本語が入ってきたりして観光客を意識した観光化が進んできています。舞踊譜は昔の作品を掘り起こす時にのみ使用します。普段は「そのまま伝授」が基本です。[資料3] 踊りは塾のような練習所がいくつかあり、どこも安価で誰にでも開かれています。私のバリでの体験でも日曜日にはあちこちで踊りを習っている少女を眼にしました。大学では様々な地域の舞踊を習います。大学外の「ブジョクスマン」という塾では、昼間はクラス、夜は観光客用に伝統舞踊を公演していました。インドネシアでは現在海外公演に出掛ける機会が多くなっています。政府からの助成金で大学からも諸外国に公演活動に行っています。

【バリ島のジェゴグ】＝各村には最低3つの寺があり、それぞれがオダランという誕生祭を祝っています。村所有のガムランのグループは村(地域)との結びつきが強く、楽器の所有、収入や経費、活動の方向など地域の意向とつながっています。(定期公演の収入村を潤す)ここではバリ芸能、芸能の習得、練習に関して[資料4]、芸能習得の具体例[資料5]、ジェゴグの演目とその習得[資料6]、練習[資料7]について述べることにします。なお芸能の新しい形として、数年前に女性グループが誕生し公演を行っています。またデンパサールにおいて年一回開催されているバリ島アートフェスティバルは、若い世代にバリの芸能を知ってもらうことを目標の一つとして1978年に始められ、私は数年前のアートフェスティバルで高校生による新しいケチャ上演を鑑賞しています。

【マレーシアにおける伝統的音楽の継承】(沖縄とマレーシアの音楽研究。ゼミ生・土屋 南氏)

【中国南京音楽院の事例】(南京音楽院卒業、古箏演奏家。ゼミ生・蔡 愛琴氏)

【教員養成系大学におけるカリキュラム/授業数など】⇒資料8, 9